

オリーブ内科クリニック 鈴木院長に聞く

vol.12

糖尿病性神経障害の痛みとしびれについて



オリーブ内科クリニック
院長 鈴木 義明

【経歴】
藤田保健衛生大学卒業(平成8年)
坂文種報徳会病院 麻酔科
名古屋大学 環境医学研究所
ドイツ ニュルンベルグ エルランゲン大学 生理学
尾洲病院 内科
木曽川市民病院 痛み外来

を感じることがあります。時には、「皮膚の表面に虫が這っているよう」に感じたり、「足先がほつたり冷たく感じたり」することもあります。さらに神経障害が進行すると神経の機能が失われ、感覚が鈍くなり、傷を負っても気づきにくくなります。自律神経の働きが低下すると、立ちくらみ、便秘、下痢、インスリンなどの症状が現れることがあります。

糖尿病性神経障害の原因

Q 今回は糖尿病性神経障害について教えてください。まずこの障害の原因はなんでしょうか?

A 糖尿病で血糖値が高く持続すると神經に栄養を伝える毛細血管の中を血液がスムーズに通ることができなくなります。また、虫歯になります。また、虫歯になりにくい甘味料で知られているソルビトールがアルドース還元酵素の働きにより余分なブトウ糖から作られ、神經細胞内に多量に蓄積すると細胞がむくみます。そうした変化により、末梢神経に機能障害が生じ、痛みなどを感じる知覚神経や内臓の働きを整

える自律神経などの働きが低下し、全身に様々な症状が現れるようになります。(注・ソルビトールは通常体内に存在する物質で、少ない量では健康に害はありません)

糖尿病性神経障害の管理

Q 予防法やこの障害になってしまった場合の病気との付き合い方についても教えて頂けますか。

A 糖尿病の痛みを予防することも治療することも基本は、血糖コントロールを良好に保つことになります。それには食事療法と運動療法を並行して行っていく必要があります。

Q 食事療法については食習慣を見直し、カロリーを制限するとともに、必要な栄養素を過不足なく摂取することです。運動療法については、運動により筋肉での糖の利用が促進され血糖値が低下します。さらに運動を継続するとインスリンの働きが良くなり、血糖コントロールがよくなり

ます。神経症状がなくても神経障害は始まっていることがあるため、末梢神経伝導速度を測定する検査で確認することができます。

難治性有痛性糖尿病性神経障害の治療

Q 最後にこの障害の進行に関する教えてください。

A 糖尿病性神経障害の進行に関与するリスク因子には、血圧、脂質異常症、喫煙、飲酒などがあり、生活習慣の改善が必要なことがあります。耐え難い痛みである場合は、三環系抗うつ薬、抗痉攣薬、選択的セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬が痛み治療に推奨されています。

看護師・検査技師募集中

お気軽にお問い合わせ下さい



オリーブ内科クリニック
0587-21-1177
〒492-8145 稲沢市正明寺3丁目191
olive-cl.com



診療時間	月	火	水	木	金	土	日
AM8:30~12:00	●	●	●	●	●	●	/
PM4:30~ 6:30	●	●	●	●	●	●	/

診療科目 内科 ペイン(痛み)内科 リハビリテーション